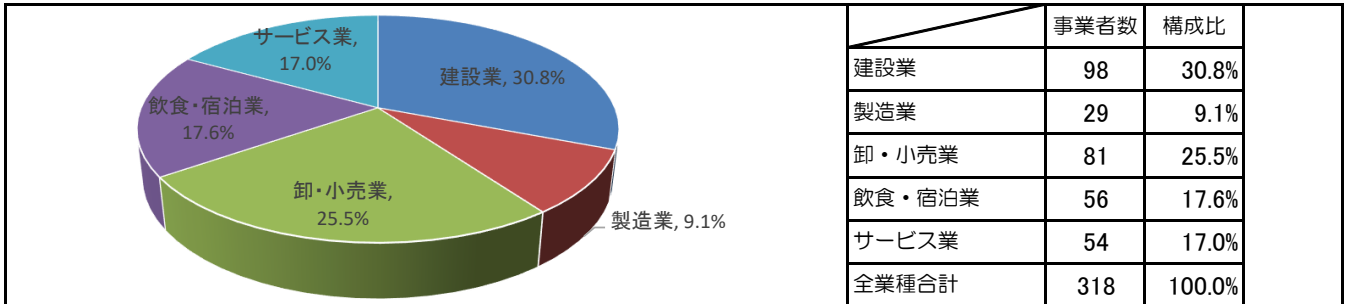


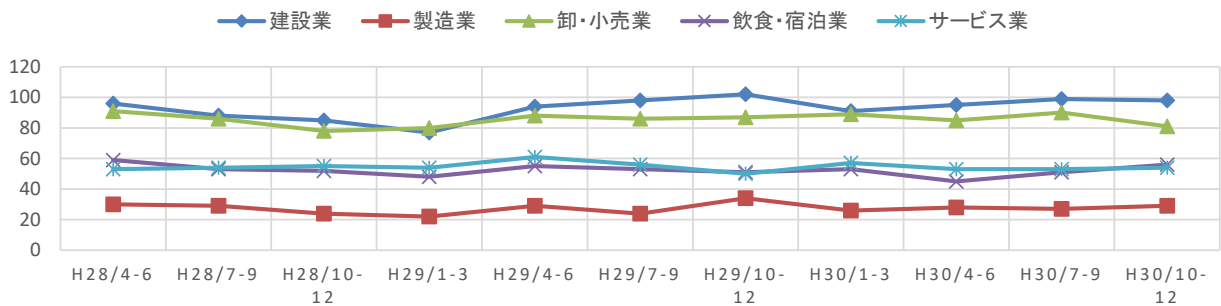
小規模事業者以外含む全事業所

◇ 調査対象事業所構成割合

<商工会地域市内全体>



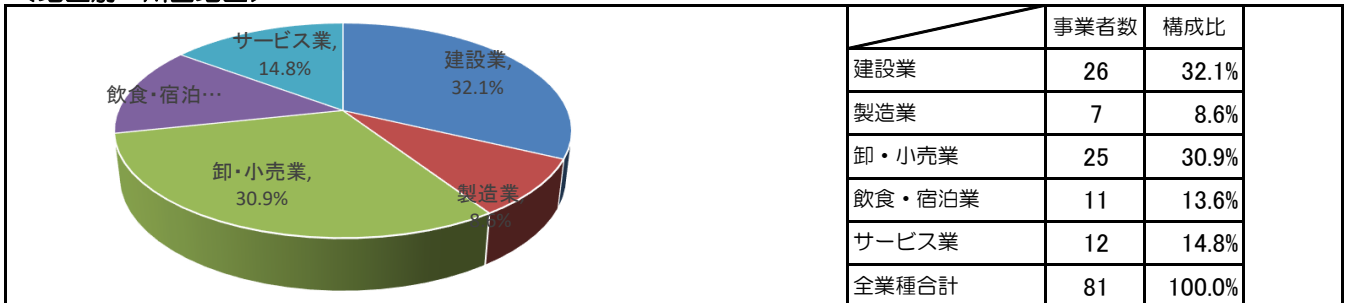
業種別調査事業所数の推移(市内全体)



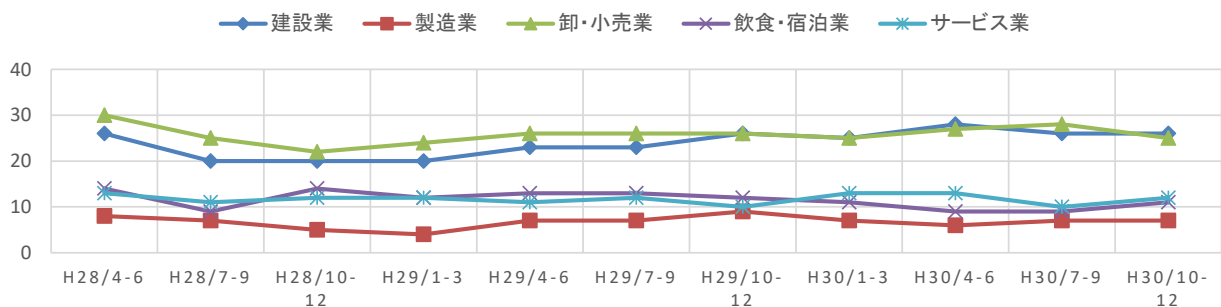
<コメント>

今回の調査も十日町市内商工会地域全体の約3割の事業者から回答を得ている。前回調査よりも2事業所少なかったが、構成割合も前回と大きな変動の無い結果となっている。

<地区別：川西地区>



業種別調査事業所数の推移(地区)



<コメント>

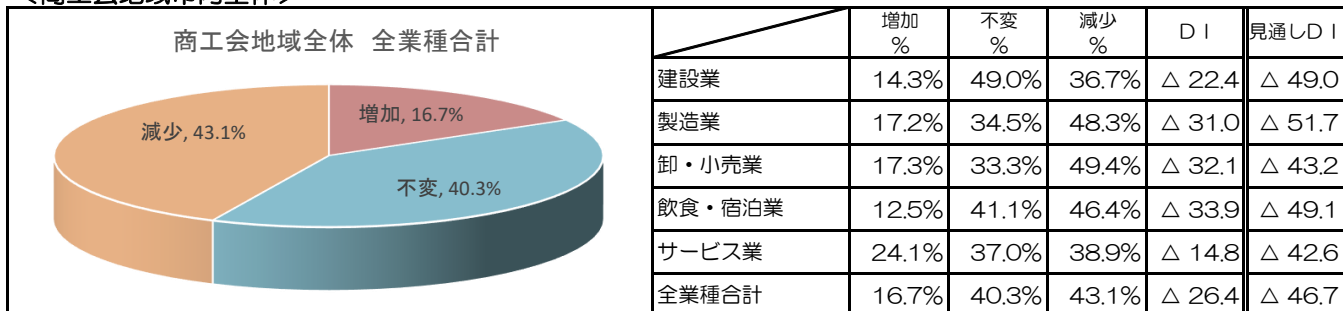
川西地区の業種割合は商工業者100社を対象に調査依頼をし、81社(回収率81%)からの回答を基にした集計結果である。製造業の割合が少ないものの、これまでの調査対象事業者数と同様の数値である。

DI 値（景況判断指数）＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）

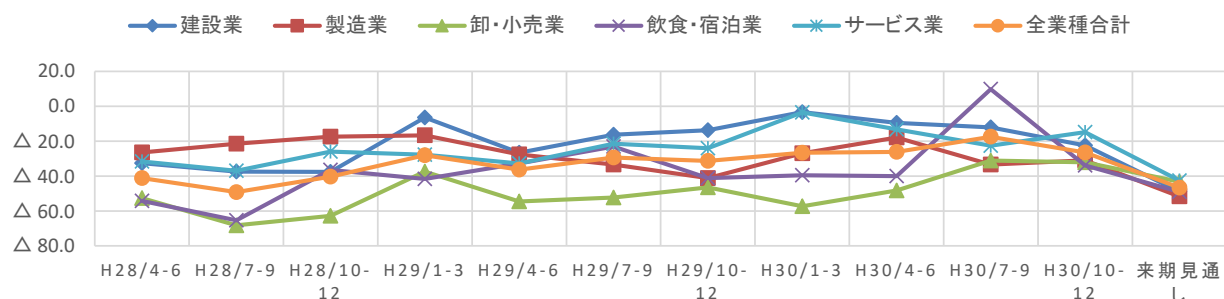
1. 売上について

- ・10月～12月の売上は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



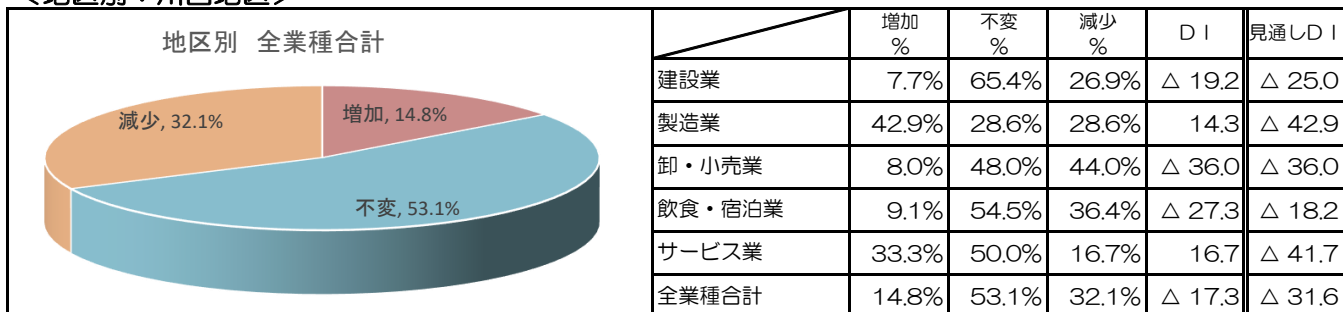
業種別売上の推移(市内全体)



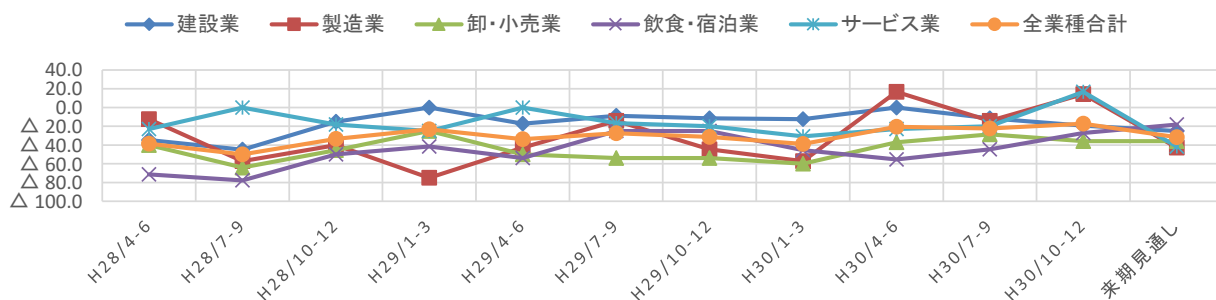
<コメント>

今期の市内全体の売上状況は、全業種DI値で△26.4ポイントであった。昨年度の同期は△31.3ポイントであり、前年同期比で4.9ポイント改善されている。一昨年度の同期DIは△40.4ポイントであり、過去三カ年の中では一番良い数値となっている。ただし、来期見通しにおいて全ての業種が減少予測しており、今後の動向に注視したい。

<地区別：川西地区>



業種別売上の推移(地区別)



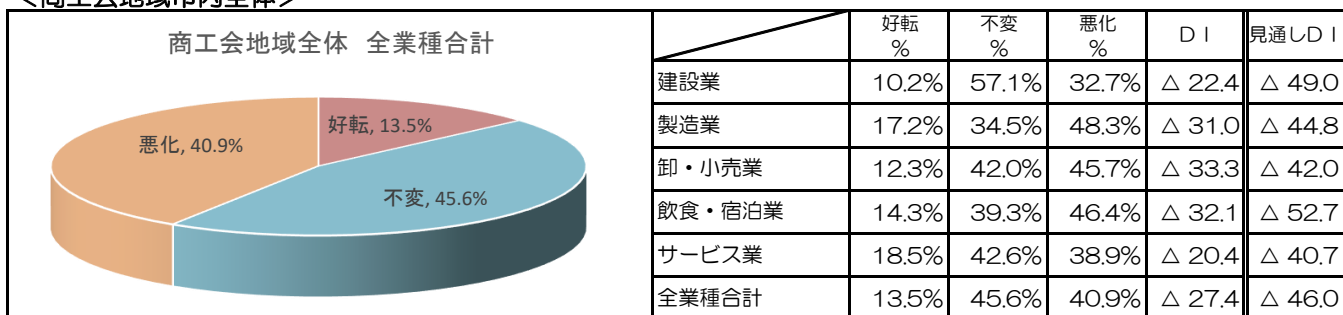
<コメント>

川西地域の売上は業種全体で前年同期と比較して△17.3ポイントの減少となっている。製造業、サービス業は売上が好調であるが、それ以外の業種では悪化を示している。来期見通しでは全業種で△14.3ポイントの悪化を予想している。

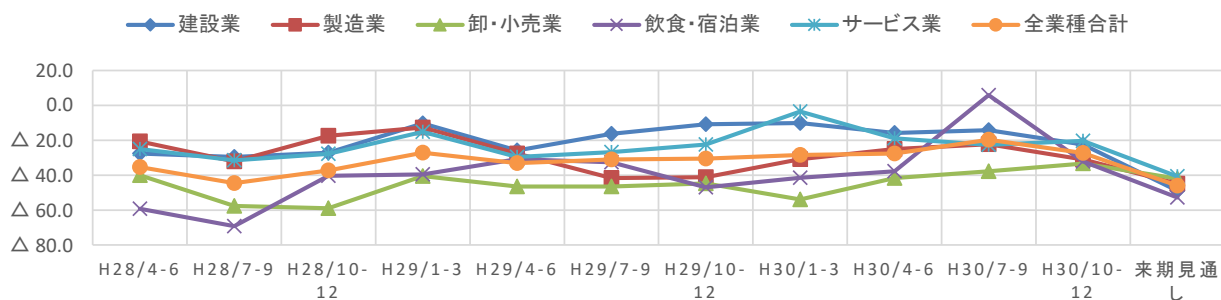
2. 採算について

- ・10月～12月の採算は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



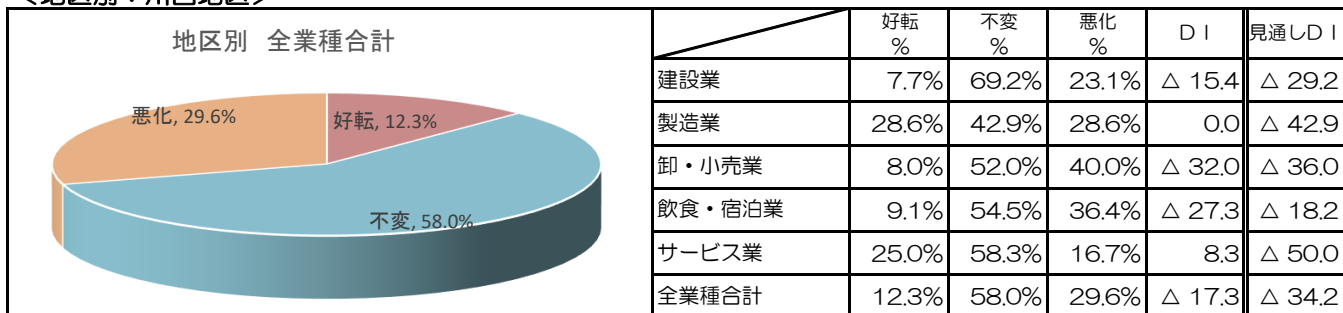
業種別採算の推移(市内全体)



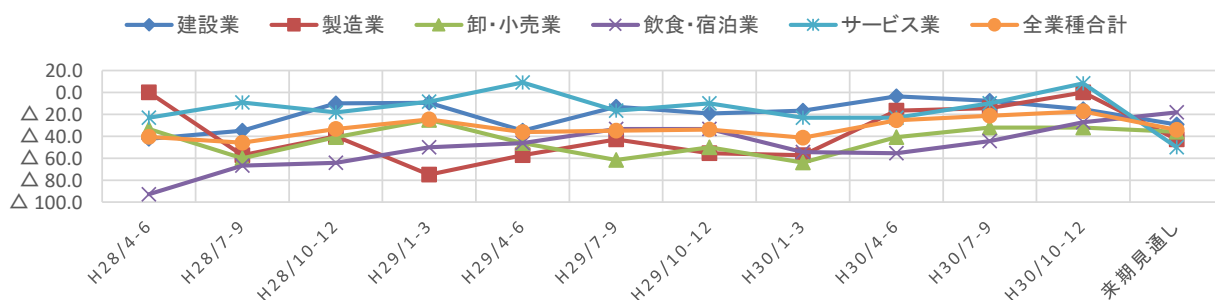
<コメント>

今期の市内全体の採算状況は、全業種D I値で△27.4ポイントであった。昨年同期のD Iは△30.5ポイントであり、3.1ポイント改善している。一昨年度の同期(△37.3)比較でも改善されており、売上と同様の推移グラフとなっている。来期見通しは全業種で悪化予測されており、売上減少による採算の悪化と推測できる。

<地区別：川西地区>



業種別採算の推移(地区別)



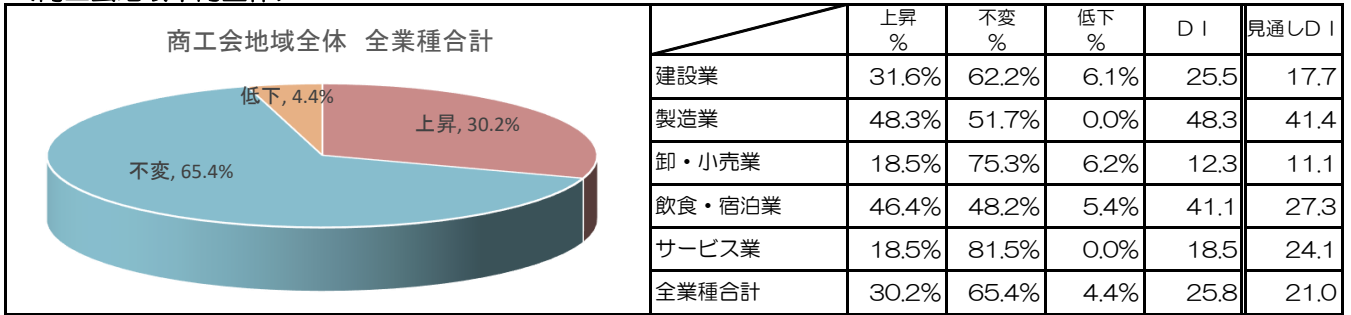
<コメント>

川西地域の採算性は前年同期と比較して△17.3ポイントの悪化となっている。サービス業が8.3ポイントの改善、製造業が不変とのことであり、その他の業種においては悪化を示している。来期見通しでは全業種で△16.9ポイントの悪化を予想している。

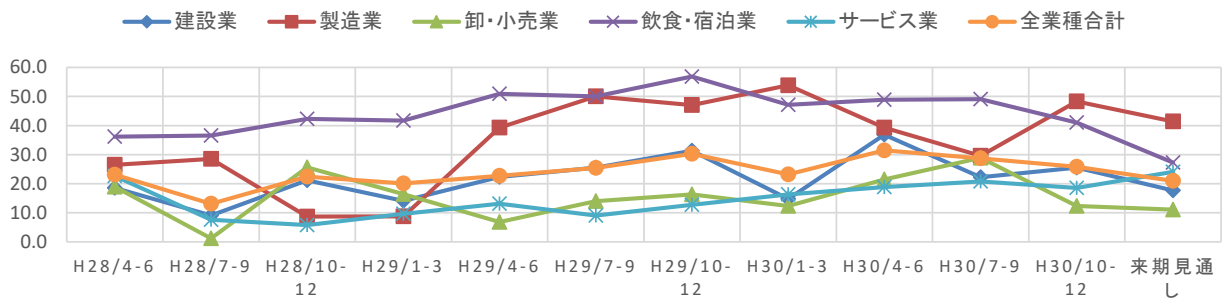
3. 仕入単価について

- ・10月～12月の仕入単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



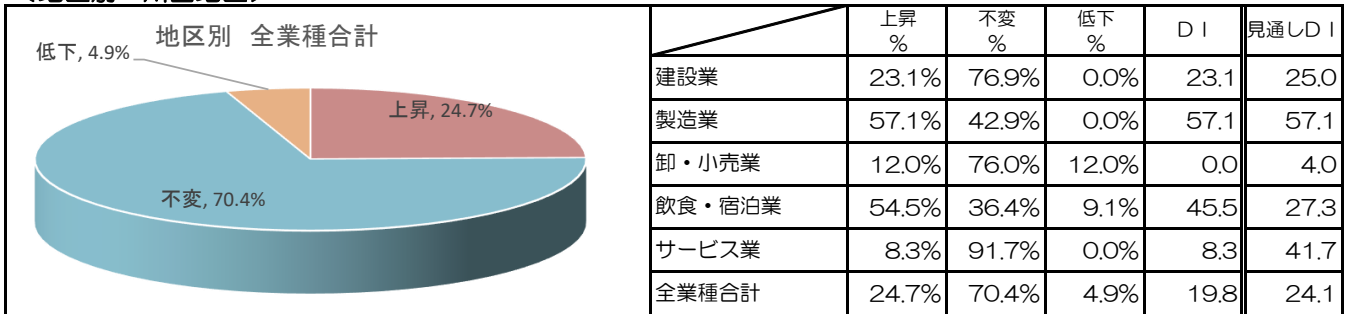
業種別仕入単価の推移(市内全体)



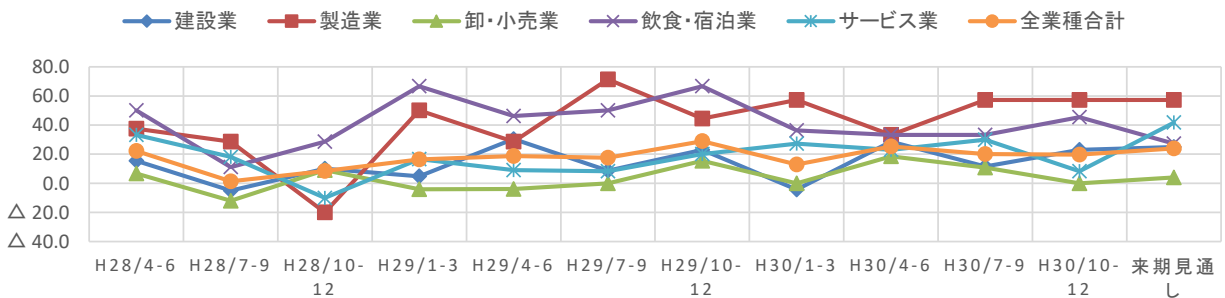
<コメント>

今期の市内全体の仕入単価の状況は、DI値25.8ポイントであった。昨年同期は30.3ポイントであり、4.5ポイント低下となっている。不変回答が全体で65.4%と半数以上の事業所で変動が無いものと思われるが、業種別では製造業と飲食・宿泊業で価格上昇回答が多かった。来期見通しではサービス業以外の業種で低下予測している。

<地区別：川西地区>



業種別仕入単価の推移(地区別)



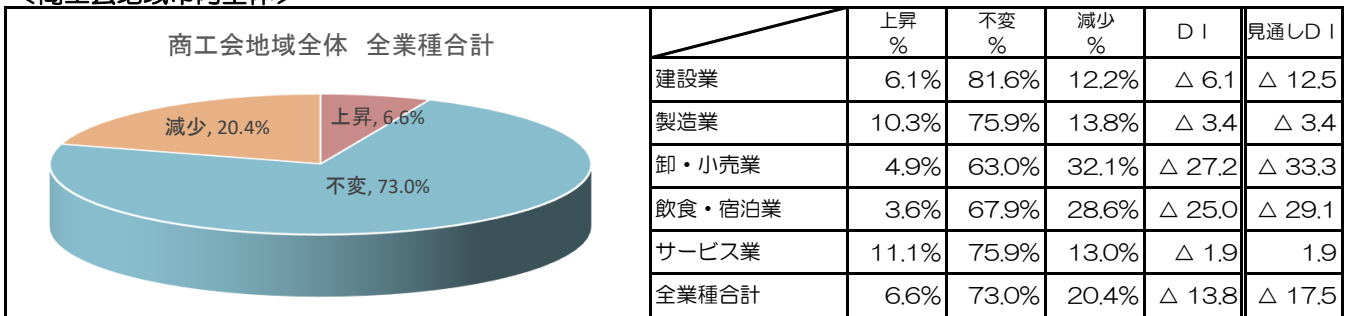
<コメント>

川西地域の仕入単価は前年同期と比較して19.8ポイントの上昇を示しており、特に製造業、飲食・宿泊業において顕著である。来期見通しは全業種で4.3ポイントの仕入単価上昇が見込まれている。

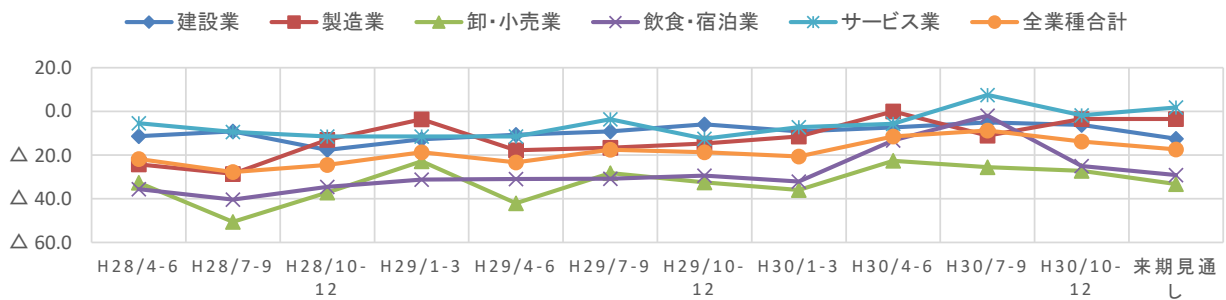
4. 販売（客）単価について

- ・10月～12月の販売（客）単価は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



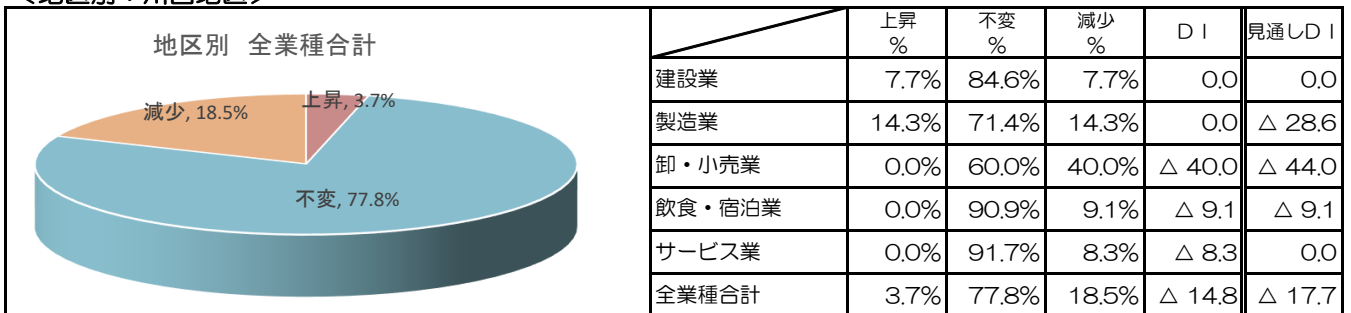
業種別販売（客）単価の推移（市内全体）



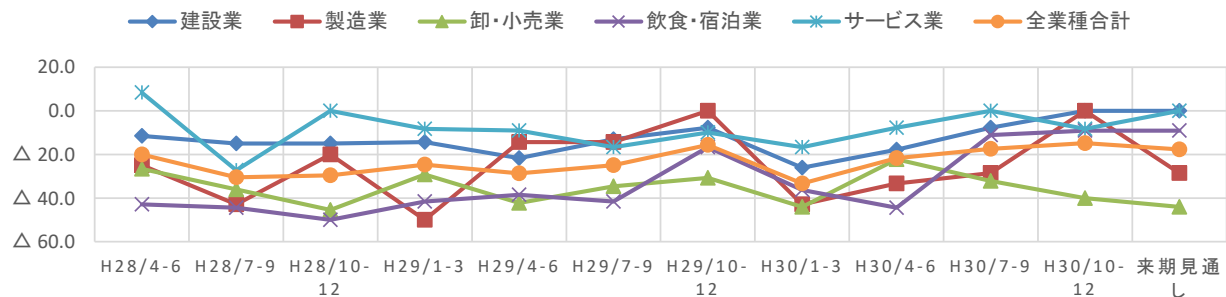
<コメント>

今期の市内全体の販売（客）単価の状況はDI値△13.8ポイントであった。前年同期（△18.7）比で4.9ポイント上昇しているが、不変回答が73.0%あり、多くの事業所では変動が無いものと思われる、業種別では卸・小売業及び飲食・宿泊業で減少が大きく表れている。来期見通しはサービス業で上昇予測されているものの、その他の業種で若干であるが減少予測されている。

<地区別：川西地区>



業種別販売（客）単価の推移（地区別）



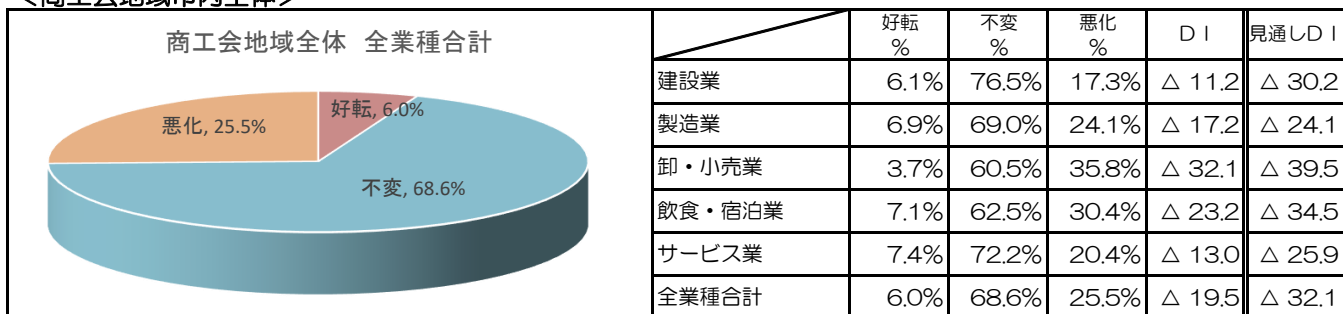
<コメント>

川西地域の販売単価は前年同期と比較して△14.8ポイントの悪化となっており、建設業、製造業は不変であるが、卸・小売業の悪化が大きく表れている。来期見通しでは△2.9ポイントの悪化が予想されている。

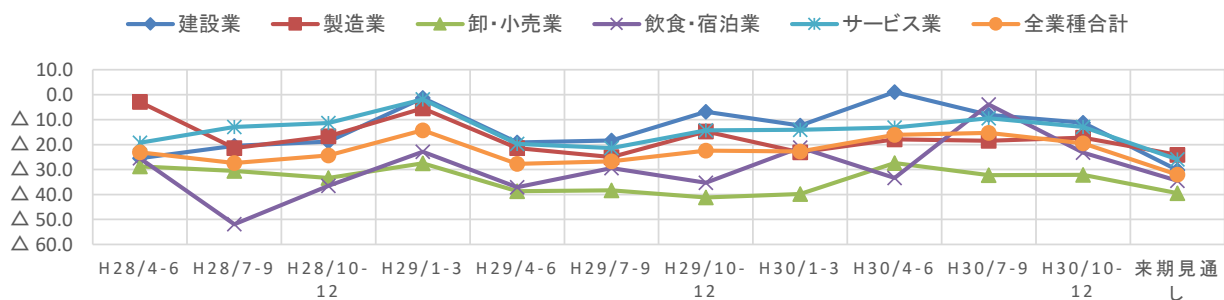
5. 資金繰りについて

- ・10月～12月の資金繰りは前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



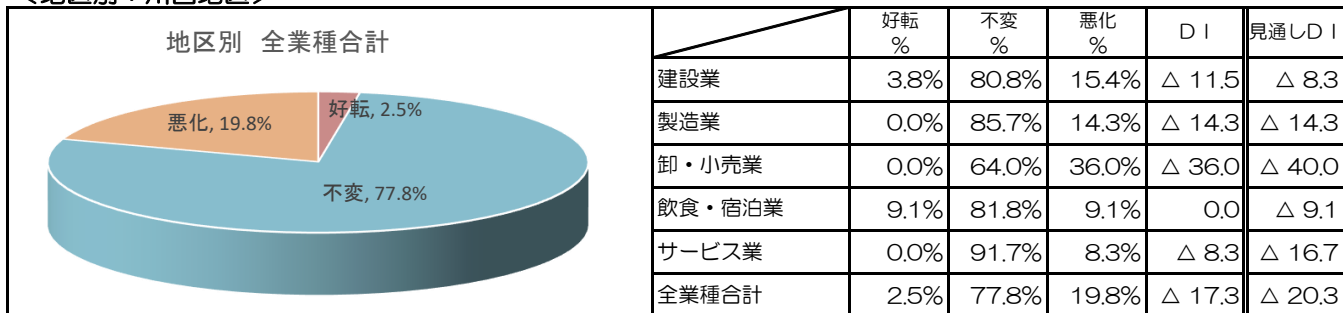
業種別資金繰りの推移(市内全体)



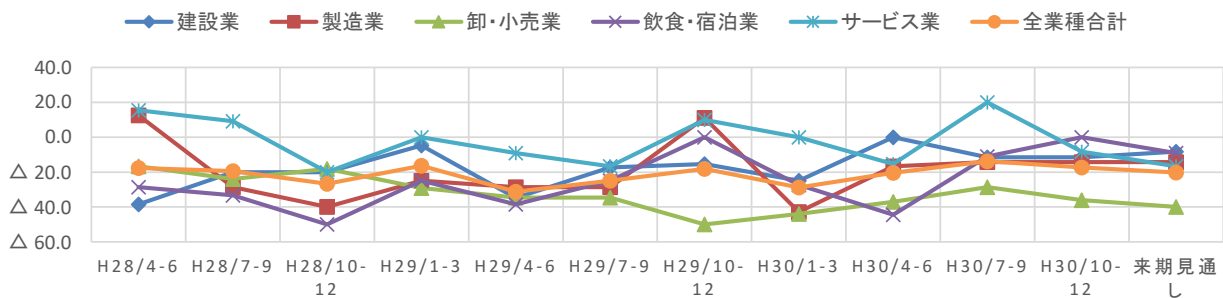
<コメント>

今期の市内全体の資金繰り状況は、DI値△19.5ポイントであった。前年同期（△22.4）比で2.9ポイント改善されているが、来期見通しは全ての業種で今期よりも悪化予測されており、売上状況で減少予測されている影響からの資金繰り悪化と推測できる。

<地区別：川西地区>



業種別資金繰りの推移(地区別)



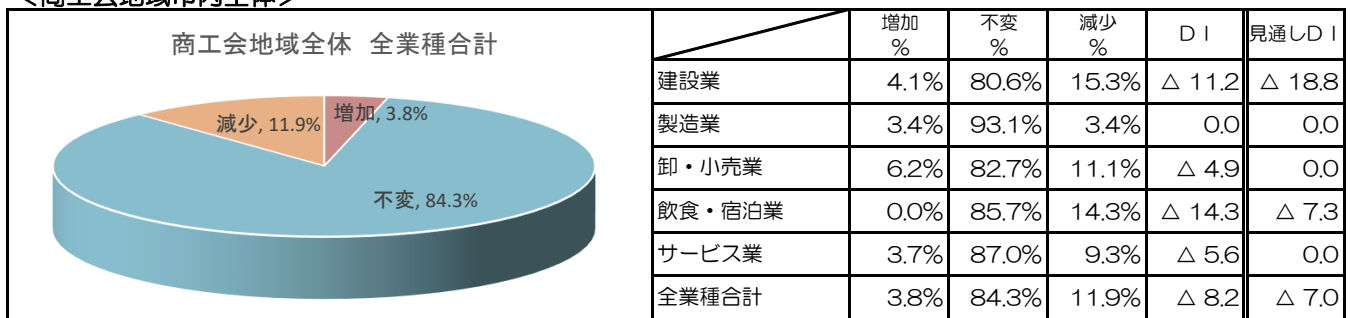
<コメント>

川西地域の資金繰りは全業種で△17.3ポイントの悪化であるが、飲食・宿泊業は不変とのことであった。来期見通しは全体的に△3.0ポイントの悪化が見込まれている。

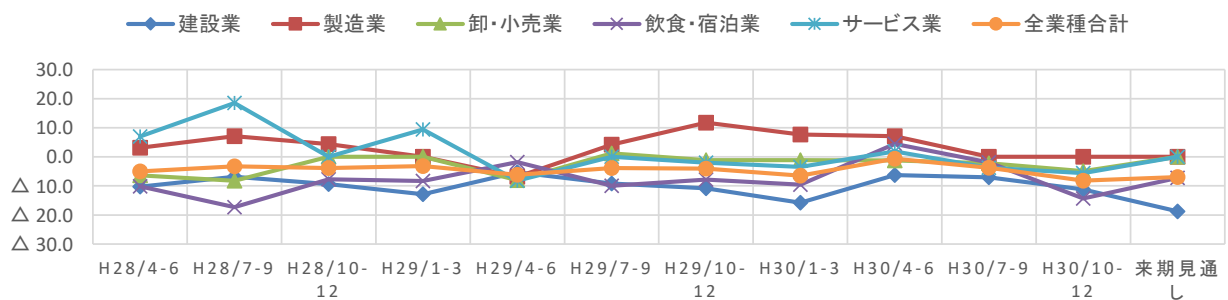
6. 従業員数について

- ・10月～12月の従業員数は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



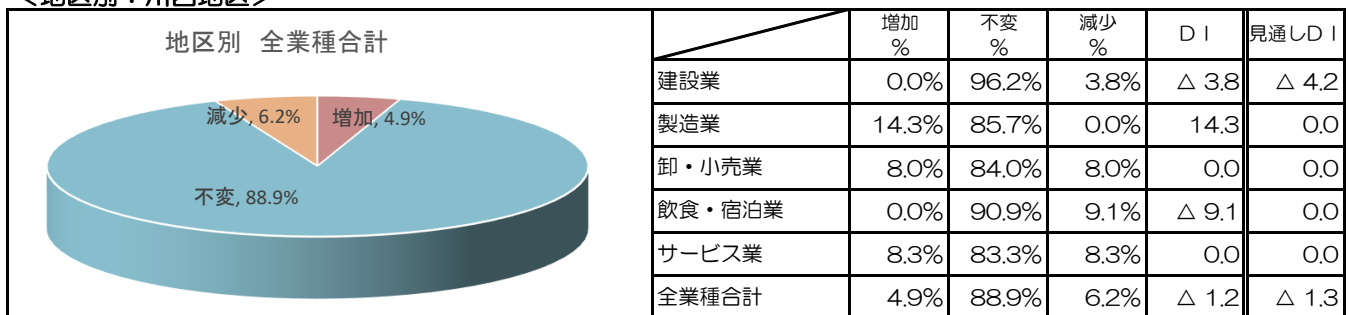
業種別従業員数の推移(市内全体)



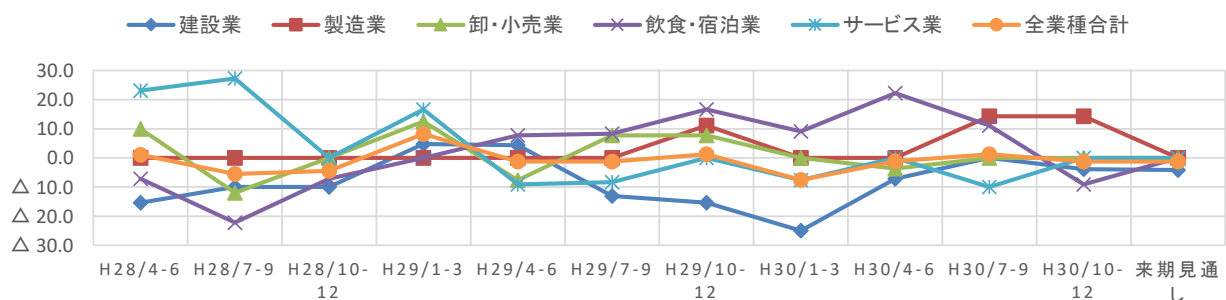
<コメント>

今期の市内全体の従業員数は、DI値△8.2ポイントであり、円グラフから分かるとおり不変事業所が大半である。今期は建設業と飲食・宿泊業でマイナスポイントが高かった。来期見通しでは、建設業で△18.8ポイントのマイナスを示しているものの大きな変動は無いものと思われる。

<地区別：川西地区>



業種別従業員数の推移(地区別)



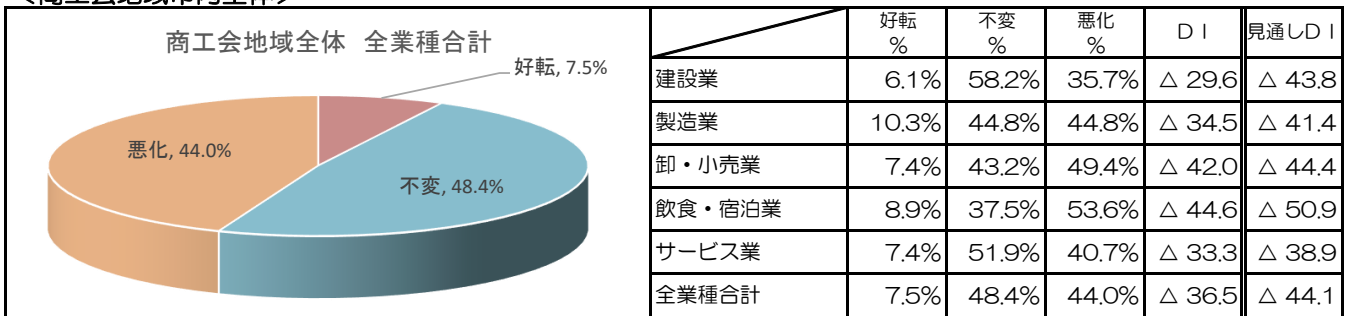
<コメント>

川西地域の従業員数は全業種で△1.2ポイントの悪化であるが、製造業においては従業員数が増加している傾向にある。全業種から見た来期見通しとしては全体的に△0.1ポイントの悪化と予想されている。

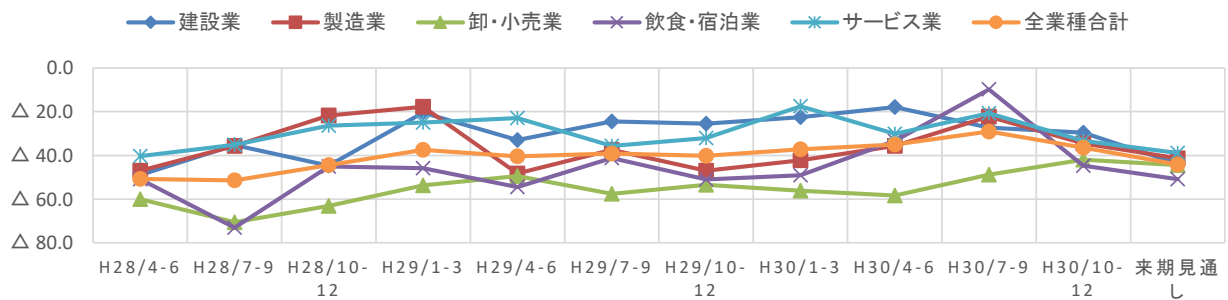
7. 景況判断について

- ・10月～12月の景況は前年の同期に比べてどうですか？

<商工会地域市内全体>



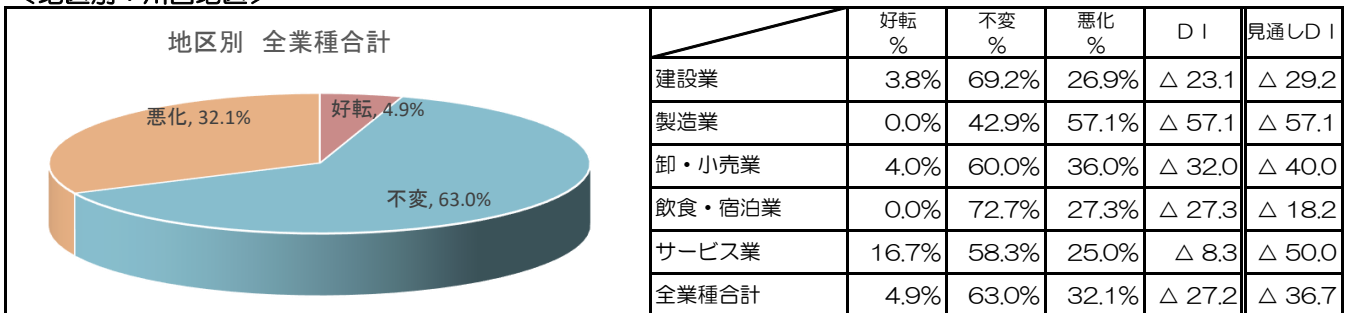
業種別景況判断の推移(市内全体)



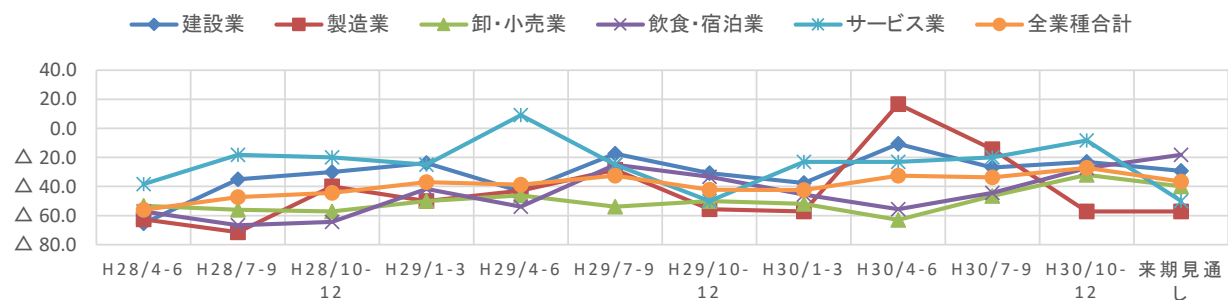
<コメント>

今期の市内全体の景況判断状況は、DI値△36.5ポイントであった。前年同期（△40.2）比で3.7ポイントの改善となっている。業種全体の推移グラフで景況判断も微増傾向にあったが、今期で下降し、来期見通しも悪化予測されている。

<地区別：川西地区>



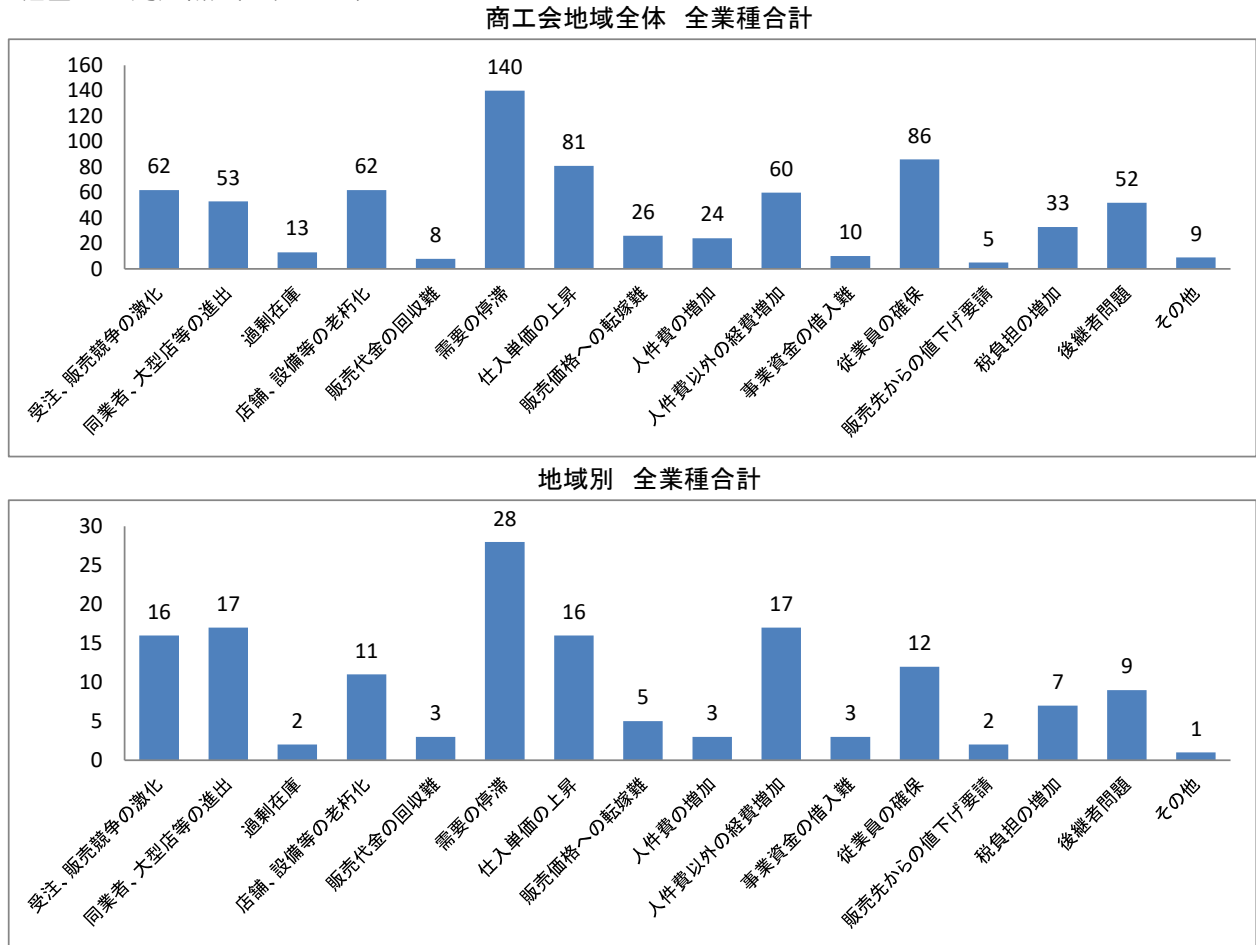
業種別景況判断の推移(地区別)



<コメント>

川西地域の景況判断として全業種で△27.2ポイントの悪化を示しており、中でも製造業において景況感の悪化が顕著となっている。来期見通しとしてはさらに△9.5ポイントの悪化が見込まれている。

8. 経営上の問題点（上位3つ）



<コメント>

今期調査での経営上の問題点は、1位が需要の停滞、2位に従業員の確保、3位が仕入単価の上昇となっており、従業員の確保難が全業種で問題となってきている。また、人件費以外の経費増加を回答している事業所も多くなってきている。

9. 地区の景況概要

・10月～12月時点での全体概況は

【建設業】

建設業においては全体的に悪化しているとの回答が多い中、「販売単価」については前年同期と不変といった回答が多かった。また、経営上の問題点としては1位「受注、販売競争の激化」2位「需要の停滞」3位「人件費以外の経費増加」と挙げられており、競合他社を意識する事業所が増加していることが伺える。

【製造業】

製造業においては「仕入単価」、「資金繰り」、「景況判断」において悪化を示しているものの、それ以外においては改善及び不変を示している。経営上の問題点としては1位「需要の停滞」2位「仕入単価の上昇」「人件費以外の経費増加」3位「店舗、設備等の老朽化」「人件費の増加」「後継者問題」が挙げられており、前回の第2四半期調査同様「需要の停滞」を感じる一方で、営業コストの増加に悩む事業所の増加が見受けられる。

【卸・小売業】

卸・小売業においては「仕入単価」、「従業員数」が不変であるが、その他の調査項目に関しては悪化が示されていた。経営上の問題点としては1位「需要の停滞」2位「同業者、大型店等の進出」3位「受注販売競争の激化」と挙げられ、これまで同様に需要停滞の中で競合他社の動向に注視する事業所が増加している。

【飲食・宿泊業】

飲食・宿泊業においては全体的に悪化の傾向が表れているが、「資金繰り」に関しては不変とのことであった。経営上の課題については1位「仕入単価の上昇」2位「人件費以外の経費増加」3位「需要の停滞」「従業員の確保」となっており、製造業同様に営業コスト増加を課題とする事業所が多くなっている。

【サービス業】

サービス業においては「売上」及び「採算」において改善、「従業員数」が不変となっており、その他の調査項目は悪化を示している。経営上の課題については1位「同業者、大型店等の進出」「販売代金の回収難」「従業員の確保」2位「店舗、設備等の老朽化」、「需要の停滞」、「仕入単価の上昇」が挙げられている。前回の第2四半期調査時に続いて従業員確保が課題として多く挙げられていたが、今回はこれ以外にも競合他社や売掛回収をはじめとした多方面で課題を抱える事業所が増加している。